

## 便潜血検査における便中ヘモグロビン、便中トランスフェリン同時測定の有用性

◎林 聡<sup>1)</sup>、磐下 彰宏<sup>1)</sup>、長谷川 安恵<sup>1)</sup>、佐藤 知香、神 千尋<sup>1)</sup>  
医療法人 山下病院<sup>1)</sup>

【はじめに】便中ヘモグロビン（以下 Hb）測定の便潜血検査の有用性は確立されているが、一方、Hb の不安定さに起因する偽陰性の存在も指摘されている。そこで、便中トランスフェリン（以下 Tf）を同時測定することの有用性を検討したので報告する。【対象】2013 年度から 2015 年度の間に当院人間ドックを受診したもののうち、便潜血検査 2 日法を行った者 2013 年度 11317 名、2014 年度 11204 名、2015 年度 11467 名【結果】2013 年度受診者中、便潜血陽性者 1062 名（9.4%）、Tf のみ陽性者 400 名（3.5%）。2014 年度受診者中、便潜血陽性者 1032 名（9.2%）、Tf のみ陽性者 390（3.5%）。2015 年度受診者中、便潜血陽性者 1053 名（9.2%）、Tf のみ陽性者 374 名（3.3%）。2013 年度 Tf のみ陽性者 400 名中、便秘ありと答えた者 34.8%。2014 年度 Tf のみ陽性者 390 名中、便秘ありと答えた者 33.1%。2015 年度 Tf のみ陽性者 374 名中、便秘ありと答えた者 30.7%。2013 年度便潜血陽性者で大腸内視鏡検査（以下 CF）受診者 189 名。うち、腺癌 15 名、腺腫 129 名、非腺腫性ポリープ 15 名、その他炎症 19 名、潰

瘍性大腸炎（以下 UC）10 名、正常 1 名。そのうち Tf のみ陽性者は、腺癌 1 名、腺腫 17 名、非腺腫性ポリープ 4 名、その他炎症 7 名、正常 1 名。2014 年度便潜血陽性者で CF 受診者 149 名。うち、腺癌 15 名、腺腫 91 名、非腺腫性ポリープ 13 名、その他炎症 18 名、UC10 名、正常 2 名。そのうち Tf のみ陽性者は、腺腫 20 名、非腺腫性ポリープ 2 名、その他炎症 7 名、正常 2 名。2015 年度便潜血陽性者で CF 受診者 153 名。うち、腺癌 13 名、腺腫 105 名、非腺腫性ポリープ 9 名、その他炎症 17 名、UC9 名。そのうち Tf のみ陽性者は、腺腫 26 名、非腺腫性ポリープ 5 名、その他炎症 6 名、UC3 名。【考察】Tf のみの陽性率は Hb に比べて低い。しかし、Tf のみ陽性者でも腺腫や腺癌がみられる。Hb のみの測定だけでは、見逃しがあると考えられる。【結論】今回の検討では、Tf のみ陽性者の中にも腺腫や腺癌の症例がみられたことから、Hb と Tf を同時測定することが有用であることが分かった。Hb と Tf を同時測定することにより、Hb のみの測定よりも大腸がんの早期発見、早期治療に貢献できるのではないかと考えられる。